
ゴルゴダの丘

たかぴょん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴルゴダの丘

【Zコード】

Z2032G

【作者名】

たかぴょん

【あらすじ】

いわゆるキリスト教的な内容ではありません

家庭環境のせいか、小さい頃のわたしは寂しがりやで、じっくりテレビを好んだ。古代人が夜更けの丘の上で星を見上げていたのに等しい。

夜深まるころに居間の窓を開けながら見るテレビドラマは、清々しく栄えて映り好きだった。小学校へ通つてもいじめられるだけだから登校を拒否し、夜更かししていた。親はひたすら無関心の容貌を貰いた。

そのころは受験競争が激化し、猫も杓子も参考書を鉛筆で塗り潰していた氣さえする。小説では『家族ゲーム』がロングセラーになっていた。優秀な兄が煙草を吸い始めた。それを叱りうと母が夕飯時に、何食わぬ顔で煙草を混ぜたご飯を家族へふるまう。そして咳き込みながら母は「どうしたの、食べないの」と言つ。いつしか兄は無言の仕打ちに耐えかね、嗚咽をしてしまう。今思えば、原作に忠実なシーンの再現をしたテレビドラマだろうが、年齢一桁代のわたしが受けた衝撃は言葉に絶した。

夜な夜な空気には漂うものは「プラスイオン」だろう。そんなやからが飢えた猫のように眼球にかじり付く。認識した神経が記憶中枢に伝わり、頭脳という墓穴へ永久に押し込められる。とくに幼い頭は、やからの餌食に成りやすい。そしてそれが大人という完成品を象る。

「ゴルゴダの丘に突き刺さった十字架の板は燃えていた。土に付

いたゴケは熱で焼かれ、ゴケの灰は果てしない空を田舎し浮遊旅行に出る。

あの幼い瞳が見ていたゴルゴダの丘の炎はますます躍起な赤さを顯し、ただ耐えられない熱さが脳細胞に伝達した。そんな過剰反応さえ、子どもを持つ年代になつたわたしの記憶にも焼け残つていった。どこかでそんな映像を見たのだろう。

わたしは幼いころ、よくイエスキリストのことを想念する。彼はわたしの父親であった。寝付く前の重たいまぶたに焼き付いた登場人物たちの魂を、慰靈する。また人生とは……やがて訪れる大人とは……、いざれ死ぬ母という存在。浮かび上がる生存疑問の、良き相談相手であった。

あの歴史的な空の下、ゴルゴダの丘に漂つっていた空気は、テレビドラマの次回予告を見終わつたあとやつて来る「消灯」という沈黙そのものだ。男女の交じりさえ視覚と聴覚への刺激で堪能する時代。子を授かることはない、感覚世界で立ち寄る旅の宿である。眠りの感覚でさえ頭に配線盤を被り、わが深淵で味わう精査な休息行為といえる。

今夜もわたしはゴルゴダの丘の上で、同じ空氣を感じていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2032g/>

ゴルゴダの丘

2010年10月17日19時58分発行